

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 62 平成20年11月（平成20年7月～9月分）

西海区水産研究所

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	山口県	<p>* 7月アカムツ調査、8月メダイ調査、いわし抄網LED集魚灯試験、7～9月間伐材魚礁調査を行った。</p>	<p>* 7～9月各月沖合定線観測を行った。赤潮の発生状況は、7/23～8/8に響灘及び油谷湾でカレンミアミキモトイが発生したが、漁業被害は見られなかった。</p>	<p>* キジハタ種苗生産試験を7/10～8/26にかけて実施し、全長27mmの種苗115,725尾（生残率12.4%）を生産した。引き続き中間育成し、全長50～60mmの種苗約3.5万尾を県下各地に放流した。</p>	<p>* タチウオ（水分、灰分、粗脂肪）の成分分析を実施した。漁協婦人部を対象にスルメイカの加工品開発を実施した。</p>
	福岡県	<p>* 筑前海：メダイの幼魚分布調査、アジ等の浮き魚資源を対象とした漁獲物調査、ケンサキイカ産卵場調査、トラフグの人工種苗放流（7～8月標識漁含む）、トラフグ漁獲物調査、イカナゴ資源調査。 * 有明海：タイラギ調査、アサリ調査、サルボウ調査、ガザミ調査、食用クラゲ調査、その他魚介類漁獲状況調査。 * 豊前海：アサリ資源量調査、小型底びき網調査、ナルトビエイ調査。 * 内水面：小石原川・佐田川資源調査。</p>	<p>* 筑前海：浅海・沿岸・沖合定線調査、漁場環境保全事業（漁場環境調査、赤潮発生監視調査、貝毒発生監視調査）、水質監視調査。 * 有明海：浅海定線調査、漁場環境保全事業（漁場環境調査、赤潮発生監視調査、貝毒発生監視調査）、水質監視調査、エチゼンクラゲの分布調査。 * 豊前海：新漁業管理制度推進情報提供事業調査（旧浅海定線調査）、漁場保全調査、赤潮・貝毒調査。 * 内水面：矢部川・筑後川の水質調査。</p>	<p>* 筑前海：アマノリのDNA解析、中間育成クルマエビのPAV検査、KHV検査、磯根資源調査、カキ養殖調査、アコヤガイ養殖調査。 * 有明海：ノリの品種判別試験、ノリの優良形質選抜法の開発、ノリの室内培養による品種評価法の開発試験、河川水由来の栄養塩の有効利用技術の開発調査。 * 豊前海：カキ養殖調査。 * 内水面：ハヤの資源回復試験。</p>	<p>* 筑前海：アサリ加工試験、水産物加工体験教室。</p>
	佐賀県	<p>* 玄海：資源評価調査。 * 有明：アゲマキ天然発生調査、タイラギ生息状況調査、漁獲物動向調査（市場調査）。</p>	<p>* 玄海：温排水影響調査、藻場ライン調査（仮屋）、赤潮・貝毒調査、漁場環境調査（玄海一円）、生物モニタリング調査（仮屋湾）、地球温暖化影響評価調査（海洋調査及び聞き取り調査）。 * 有明：浅海定線調査、沖合モニタリング調査、漁場環境モニタリング調査（底質、マクロベントス）、漁場環境調査（感潮域）、貧酸素水塊漁業被害防止対策調査分析、赤潮調査、貝毒調査、エチゼンクラゲ生態調査。</p>	<p>* 玄海：クルマエビ、トラフグの放流、クルマエビ追跡調査、カサゴ、クエの放流、カサゴ、オニオコゼ、クエの追跡調査、アカガイ養殖試験（伊万里湾）、貝毒（PSP）HPLC分析、養殖日誌記帳調査、アカウニ、ナマコの種苗生産試験、稚ナマコの減耗防止開発試験。 * 有明：カキ天然採苗試験、マガキ、イワガキシングルシード籠垂下養殖試験、シカメガキ籠垂下養殖試験、サルボウ浮遊幼生、付着稚貝調査、サルボウ漁場利用実態調査、アゲマキ放流技術開発試験、アゲマキの囲繞提を使用した底質改善試験、ガザミ放流追跡調査、壺状菌（海水、泥）の検出調査、スミノリ原因細菌のモニタリング調査。</p>	<p>* 玄海：加工品開発、販売支援「燻製赤貝」（鹿島市女性部）。</p>

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 62 平成20年11月（平成20年7月～9月分）

西海区水産研究所

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	長崎県	<p>*アマダイ調査（対馬：7～9月）、トビウオ調査（五島：7～9月、北松：7～9月、対馬：7～9月）、トビウオ船びき網試験（五島：9月）、アジ・サバ調査（西彼：7月）、カタクチイワシ調査（橘湾：7月）。</p>	<p>*沿岸定線調査（五島灘、西沖：7～9月）、浅海定線調査（有明海：7～9月）、クラゲ調査（五島、対馬：8、9月）、クラゲ幼生調査（有明海：7、8月）、赤潮調査（諫早湾：7、8月、大村湾：7、9月、伊万里湾：8、9月、薄香湾：7、8、9月）、貝毒調査（対馬地区：7、8、9月、島原地区：7、8、9月）、干潟域環境・アサリ調査（小長井町：7、8、9月）、有明海浮遊物調査（9月）。</p>	<p>*標識放流：トラフグ7月（有明海他7cm、91,850尾）、ガザミ：8月（有明海C6～C7、5,000尾）。</p> <p>*追跡調査：放流トラフグ（9月）、放流ガザミ（8～9月）、放流クエ（7月）。</p> <p>*天然資源、漁獲実態調査：トラフグ当歳魚調査（9月）、オニオコゼ漁獲物調査（7～9月）、ガザミ漁獲物調査（7～9月）。</p> <p>*種苗生産、中間育成： クエ、マハタ：5月にホルモン処理によって採卵し、種苗生産試験を開始、7月下旬にはクエ稚魚25,300尾マハタ稚魚500尾を生産した。</p> <p>カワハギ：5月上旬に陸上水槽内自然産卵で受精卵を確保し、種苗生産試験を開始し、7月下旬に稚魚1,200尾を生産した。</p> <p>クロマグロ：7月下旬に（独）水産総合研究センター奄美栽培漁業センターから譲与された受精卵を用いて種苗生産予備試験を実施し、8月21日に稚魚935尾を生産した。生産した稚魚は直ちに五島市まで輸送試験と現地での養殖試験に供した。</p> <p>アカアマダイ：9月下旬から対馬市上対馬町において、天然漁獲物からの採卵試験を開始した。</p> <p>*トリガイ種苗生産後の中間育成試験、クマサルボウ種苗生産試験・中間育成試験、タイラギ種苗生産試験、タイラギ生息状況調査（諫早湾）、藻場調査（9月から秋季調査）、ベコ病の実態調査（シスト調査等）、マハタのウイルス性疾病対策試験、トラフグに対するオキシテトラサイクリン効能試験、マハタ適正栄養要求試験、電解ろ過水槽の実用化試験。</p>	<p>*加工技術など指導（7～9月）：技術相談29件153人（内施設利用8件43人）、研修会6回101人、巡回指導2回18人、来訪者153人。</p> <p>*研究技術開発：発酵技術を利用した水産加工新製品の開発、イカ肉の高度有効利用技術の開発、長崎県産魚を原料とした機能性醗酵食品（さかな味噌）の開発、塩干品高品質化原料調査研究事業。</p>

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 62 平成20年11月（平成20年7月～9月分）

西海区水産研究所

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研究の動向	熊本県	*マダイ・ヒラメ・クルマエビの放流魚混獲率調査、カタクチイワシ資源量調査、卵稚仔調査・稚魚調査、藻場関係調査、アサリ干潟調査、タイラギ資源モニタリング調査。	*有害プランクトン等モニタリング調査、浅海・内湾定線調査、浦湾（養殖漁場）調査。	*持続的養殖生産推進事業、養殖魚介類生産安定対策事業、環境適応型ノリ養殖対策試験、海面養殖ゼロエミッション推進事業。	*水産物付加価値向上事業、水産物安全安心確保推進事業。
	大分県	*魚市場調査、立体的魚礁効果調査、標本船調査、タチウオ資源調査、アジ・サバ生態調査、アサリ資源調査、カニカゴ目合拡大試験。	*沿岸・浅海定線調査、赤潮・貝毒調査、磯焼回復試験、ナルトビエイ生態調査、ミズクラゲ生態調査、河川環境保全調査、濁水影響試験。	*耐病性アコヤガイ・ヒラマサ・カワハギ・マハタアサリ・イワガキ・イタボガキ種苗生産試験、ヒジキ増養殖試験、アワビ・クルマエビ・カサゴ・トラフグ・アサリ・マコガレイ放流効果調査、イワガキ・ミルクイ養殖試験、ブリ・カワハギ餌料試験、ヒラメ・海藻・アワビ複合養殖現地試験、ヒラメ健康管理技術開発、ドジョウ稚魚生産供給及び生産技術指導、スッポン種苗生産、県産アマゴ春採卵技術開発、アユ放流試験・親魚養成、ホンモロコ飼育試験、コイヘルペスウイルス病（KHV）検査、淡水魚養殖漁家巡回指導。	*ブリ肉質評価試験。
	宮崎県	*主要浮魚類資源調査、資源回復計画関連調査等。	*沿岸定線調査、沖合定線調査。 *赤潮プランクトン定期調査：大分県境北浦湾で1回／月実施。赤潮の発生なし。	*カサゴの放流効果調査：平成12年から毎年標識放流を行っている海域での標識放流カサゴの追跡調査（結果混獲率5.6%）。 *種苗生産：カワハギ種苗生産試験。 *養殖関係：カタクチイワシ等による養殖飼料開発試験。	*水産加工利用：鮮度低下の早い魚種の鮮度保持試験、九州・沖縄地域食品流通・加工研究会の開催。 *魚礁効果調査技術開発。
	鹿児島県	*漁海況週報の発行：第2262～2273報。 *200カイリ水域内漁業資源調査：アジ、サバ、イワシ等の精密測定、カタクチイワシ、マイワシ等の卵稚仔調査等。 *ヨコワ調査：7/1～11、奄振調査事業によるヨコワ調査を実施。奄美北部海域を探索したが採捕なし。 *マチ類保護区漁獲調査：7/11、8/26及び9/10に周年保護区の屋久新曾根における漁獲調査を実施。7/11はハマダイ1尾、8/26	*沖合定線海洋観測：8、9月各1回実施。 *表面水温は、全海域月平均で7月はやや高め、8月はかなり高め、9月（中旬まで）は各海域の旬平均で平年並み～やや高めで推移。 *黒潮北縁域（佐多岬～笠利埼間）は、離接岸を繰り返しながら月平均では7月は平均的な位置、8月は接岸、9月は離岸傾向で推移。種子島東の黒潮流軸位置は7、8	*カンパチ種苗生産試験：8/25で本年度の種苗生産試験を終了。計4ラウンドで84千尾（全長36～58mm）を生産。過去2番目の成績。 *スジアラ種苗生産試験：7/4から本年度の種苗生産試験を開始。9/2に1ラウンド目の種苗を計数。26,750尾（平均全長約4cm）が生残。9月末現在中間育成中。 *サバヒー種苗生産試験：8/20、約30万粒のサバヒーの受精卵を採卵し今年度のサバ	*研修視察等の受け入れ状況：7～9月、40団体、291人。 *開放型実験棟（水産加工利用棟）の運用：7～9月、延べ21団体、45人利用。 *HPのアクセス件数：7～9月、107,108件（対前年比104%）。

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 62 平成20年11月（平成20年7月～9月分）

西海区水産研究所

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	鹿児島県	<p>はアオダイ6尾、オオヒメ1尾、9/10はアオダイ20尾を漁獲。7/10～11周年保護区の沖永良部島北部のファーズネの漁獲調査を実施。魚探反応はあるものの漁獲なし。</p> <p>*メバチ、キハダの標識放流：8/1～3、奄美大島沖合で標識放流を実施。標識尾数はメバチ78尾（尾又長49～64cm）、キハダ177尾（32～69cm）。標識は、ダートタグ及びアーカイバルタグ。</p> <p>*マチ類（アオダイ、ヒメダイ、オオヒメ）の標識放流：8/22～26、種子島南で標識放流を実施。標識尾数はアオダイ112尾（尾又長21～40cm）、ヒメダイ5尾（尾又長26～36cm）、オオヒメ1尾（尾又長46cm）。標識は、ダートタグ。</p>	<p>月は離岸傾向、9月は概ね平均的な位置で推移。</p> <p>*赤潮プランクトン定期調査：鹿児島湾－7月1回、9月1回実施。八代海－7月3回、8月4回、9月2回実施。八代海で8月中旬から9月初旬にかけてシャトネラマリーナ赤潮が発生。8/19に赤潮注意報、8/21に赤潮警報を発令（9/3警報解除）。ブリ当歳魚4,200尾が斃死し約120万円の被害。また、鹿児島湾では9月初旬から貧酸素水塊が発生。9月末現在も継続中。</p> <p>*藻場造成試験（調査）：笠沙、指宿市岩本、奄美大島の藻場調査や藻場造成を指導。</p>	<p>ヒーの種苗生産試験を開始。20トン水槽での生産は不調。1トンパンラント水槽4面の飼育では約36千尾（全長平均17.2mm）を取り上げ、9月末現在中間育成中。</p> <p>*モクズガニの放流効果調査：8月1回、9月3回、放流効果調査を実施。放流後約3年半で甲長約7cmに成長していることを把握。</p>	
	沖縄県	<p>*特になし</p>	<p>*特になし</p>	<p>*タマカイ成熟研究：7/25タマカイ親魚にGnRHaを処理。翌々日に産卵があったが未受精卵であった。8月上旬生簀飼育のタマカイ親魚で自然放精を確認したが、産卵行動は観察できなかった。</p> <p>*魚病試験：8月よりチャイロマルハタのイリドウイルスワクチン臨床試験開始。また、9月より天然魚のVNN感染状況調査を実施した。</p> <p>*シャコガイ種苗生産：</p> <p>ヒレナシジャコ 5-15mm 稚貝110千個体 5mm以下稚貝160千個体</p> <p>ヒレジャコ 5-15mm 稚貝159千個体 5mm以下稚貝110千個体</p> <p>ヒメジャコ 5-25mm 稚貝158千個体 5mm以下 稚貝50千個体</p> <p>シラナミ 5-15mm 稚貝54千個体</p>	<p>*特になし</p>

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 62 平成20年11月（平成20年7月～9月分）

西海区水産研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	沖縄県		<p>*養殖用ヤイトハタ種苗生産：6月30日～8月1日に、平均全長65mm種苗を125千尾配付。</p> <p>*魚病発生状況：石垣支所内のヤイトハタ・チャイロマルハタ二次飼育において7月上旬からウィルス性神経壊死症が発生し、飼育魚の約20%が減耗した後、約3週間で本症は終息した。また、石垣島魚類養殖場で、7月上旬にヤイトハタにVNNが発症した。</p> <p><u>沖縄県栽培漁業センター</u></p> <p>*スギ：7月上中旬から生産を開始。17.7万尾（TL140mm）を生産。9月上旬までに養殖用種苗8.7万尾を出荷。</p> <p>*ヤイトハタ：8月下旬までに養殖用種苗として1.7万尾（TL99-113mm）を生産・出荷。</p> <p>*タイワンガザミ：7月に2回種苗生産を行い、計7万尾の稚ガニ（C3～4）を生産。8月上旬までに放流用種苗として出荷。</p> <p>*タカセガイ：8月上旬に250万粒採卵、飼育中。</p> <p>*シラヒゲウニ：7月上旬に採卵、幼生飼育を開始。8月上旬232万個の八腕後期幼生を採苗。11月中旬、取上・放流予定。</p> <p>*ヒメジャコ：3月生産分は8mmサイズで10万個、5mmサイズで8万個体を飼育中で、順次出荷予定。7～8月採卵分は1mmサイズで約60万個飼育中。</p> <p>*ナマコ類：6月中旬にハネジナマコの卵を176万粒採卵し、幼生飼育を開始。7月上中旬ドリオラリア幼生を計26万個採苗して飼育中。イシナマコは37万個の幼生を収容して飼育継続中。</p>	